

～農業とは～

農業の生産現場での仕事は大きく分けて2つに分類されます。

●耕種農業

稲作（米）・穀物・野菜・果樹・花などの植物を栽培する業種の総称です。きのこ類の栽培や、なたね・葉タバコ・生茶などの工芸農作物、飼肥料用作物の栽培も耕種農業に含まれます。

●畜産農業

畜産農業とは、牛・豚・鶏・馬・いのしし・めん羊・鴨など、動物の中でも家畜・家禽を飼育、肥育、ふ卵する業種の総称です。養蚕や養蜂、毛皮獣や実験用動物等の飼育も畜産農業に含まれます。

農業未経験の方へ

- 農業の仕事は朝早くから始まりますので大変です。
- 作業に慣れるまでは足腰を使う肉体労働です。
- 土などがつき汚れてしまいます。
- 酪農は汚れだけではなく、糞尿の匂いもあります。

反対に、

- 作物や動物を育てる楽しさがあります。
- 収穫する嬉しさがあります。
- やりがいがあります。
- 太陽と共に寝起きします。



※以上を踏まえてお聞き下さい。

作業内容（畑作・野菜）

畑で農作物を栽培することを畑作と呼びます。畑作では栽培する作物に合わせて、土壌養分や畑の形状などを適切に調整します。また、連作障害(同じ作物を作り続けることで起こる生育不良)を避けるために、一定期間に数種類の作物を決まった順序で栽培する「輪作」が実施されることもあります。ビニールハウスなどで保護・管理をしないため、日中と夜間の寒暖差や風雨などにさらされますが、日光など自然の恵みを存分に受けながら生産を行うことができます。

1日の仕事の流れ（例）

- 06:30～07:00 起床、朝食
- 07:00～09:00 出勤、朝礼、作業準備
- 09:00～12:00 農作業、収穫、圃場管理
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～17:30 農作業、選別、出荷など
- 17:30～18:00 夕礼、片づけ、日誌の記入
- 18:00～退勤



植え付け



収穫



育苗



マルチング



※畑作・野菜の場合は天候、季節によって作業時間が異なる場合があります。

作業内容（施設園芸）

施設野菜とはビニールハウスやガラス温室などの施設を利用して栽培したものを言います。露地野菜との違いは、季節に関わらず1年を通して野菜を栽培できること、作業や生育状況が天候にあまり左右されない等が挙げられます。施設栽培はもともとハウス内の気温を高め、露地栽培よりも早く野菜を生育・出荷させるために考え出された栽培方法です。しかし今では気温・地温・光量・土壌水分などの環境を人為的に調節し、周年的に品質の良い野菜を安定生産させることが一番の目的となっています。

1日の仕事の流れ（例）

- 05:30～07:00 起床、朝食、支度
- 07:00～09:00 出勤、朝礼、業務打合せ、作業準備
- 09:00～12:00 農作業、その他付帯作業
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～17:30 農作業、選別、出荷、販売
- 17:30～18:00 夕礼、片づけ
- 18:00～退勤



電照



芽かき



誘引



温度管理



※施設園芸の場合はハウスなどの施設を利用し栽培するため、天候、季節によって作業時間に影響が出ることはそこまでありません。

作業内容（果樹）

日本で生産されている果物は、現在主要なものでも100種以上。大部分は年に一度の収穫に向けて、1年間かけて栽培します。果樹生産は、季節ごとに旬の果物を生産し消費者に届けるのが仕事です。果樹に対し、一本一本の性質を見極め、水や肥料を与え、病気や害虫から守るという基本的な手入れを行います。日々変わる自然環境の中でも安定して果物を供給するため、年間を通じて絶え間なく作業が続きます。産地毎のブランド化や、収穫した果物を加工品として販売する、いわゆる「6次産業化」に積極的に取り組んでいる生産者が多いのも、果樹生産の特徴です。

1日の仕事の流れ（例）

06:30～07:30 起床・朝食

07:30～08:00 出勤

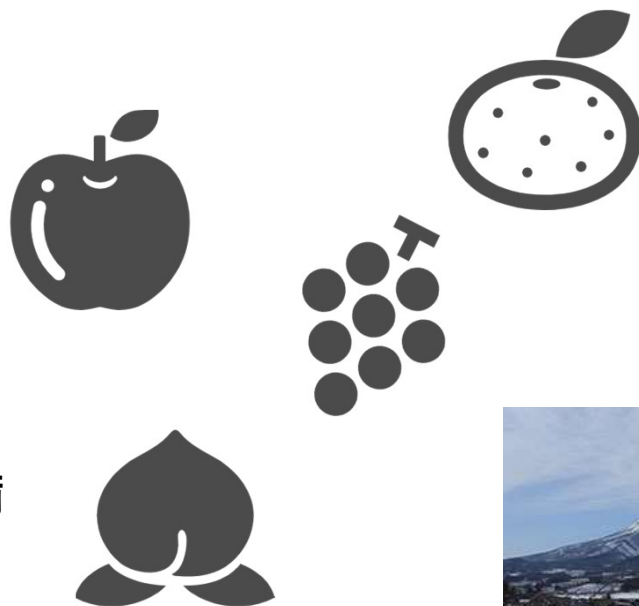
08:00～12:00 収穫

12:00～13:00 休憩（昼食）

13:00～17:00 収穫

17:00～19:00 選果・出荷準備

19:00～退勤



収穫・出荷準備



剪定



花摘み・受粉



※果樹の場合は天候、季節によって作業時間が異なる場合があります。

作業内容（酪農）

乳や肉などを生産するために動物を飼育することを畜産といい、その中でも、牛や山羊などを飼育し、乳や乳製品を生産する畜産のことを酪農といいます。日本国内では主に、牛を飼って牛乳を生産する酪農が盛んに行われています。一口に酪農といっても、数十頭程度の牛を家族で飼う個人牧場から、数千頭の牛を飼う法人牧場まで、経営規模は大小さまざまです。近年では、牛乳を生産するだけでなく、生産した牛乳を使ってチーズやバター、アイスクリームなどの乳製品を加工、販売したり、観光牧場としてお客さんを呼び込んだりするような「農業の6次産業化」に取り組む牧場も増えてきています。

酪農牧場の一日は、早朝から始まります。牛たちが健康で快適に過ごせるよう、牛舎の清掃を行い、餌をやります。多くの酪農牧場では、1日2回搾乳を行っており、1回目の搾乳を朝4~5時頃から行い、2回目の搾乳を夕方4~5時頃から行います。また、生き物相手の仕事なので、急なお産や病気などへの対応が求められることもあります。

1日の仕事の流れ（例）

- 04:00～05:00 起床、朝食
- 05:00～09:00 作業準備、搾乳
- 09:00～15:00 休憩、昼食
- 15:00～19:00 作業準備、搾乳
- 19:00～退勤



搾乳



牛舎の清掃・餌やり



※酪農の場合は天候、季節によって作業時間が異なることはありません。



住環境について

ほとんどの農業法人又は個人事業主では敷地内に宿舎を設置しております。したがって、通勤移動の心配がありません。また、外国の方が多く働いている農業法人では外国人専用のアパートやドミトリーを近隣に準備しているところもあります。

